

平成25年度
私立学校初任者研修 北関東地区研修会
実施報告概要

北関東地区の本年度初任者研修会は、6月19日（水）～21日（金）の3日間、栃木県宇都宮市のホテルニューイタヤで開催され、71名が参加した。

1日目には、開会式に続いて、当研究所の中川武夫所長が「私立学校の現状と今後の課題」と題し、現在の私学の置かれた厳しい状況をふまえて、私学教員としての心構えなどについて講義した。



次に、陶芸家の島田恭子氏による『『生み出す』ということ』では、人が生きていく上で、「感性」がいかに大切であるかについて、講義が行われた。

続いて、「心の共育“今、日本の子ども達に必要な教育とは”」では、宇都宮文星女子高等学校、上野通子副校長が、今の日本の社会や国際情勢と教育のあり方についての講義を行った。



その後、参加者及び運営委員を交えて夕食を兼ねての経験交流会が催され、限られた時間ではあったが初任者にとってはコミュニケーションの場として有意義なひとときとなった。

2日目は、まずグループ討議が行われた。参加者は5グループに分かれ、指導助言者のもと、学習指導・学級経営・生徒指導などをテーマに協議を進めた。

午後からは、バスで文星芸術大学および宇都宮文星短期大学へ移動しての臨地研修が行われた。研修①では、文星芸術大学、佐々木悟郎教授による「イラストレーターが教える水彩スケッチ」。研修②では、同大学、岡本幸久教授による「3DCGを使った物理シュミレーション」。研修③では、千葉修平講師による「マンガ制作体験」。研修④では、田中久美子教授と大澤慶子講師による「日本美術（栃木の仏像）と西洋美術（宇都宮でめぐる西洋美術）」。研修⑤では、田中康善教授による「ガラ携・スマホで家庭教育」。そして研修⑥では、宇都宮文星短期大学、樋山三郎准教授と同短期大学、高橋公子准教授による「講義と実習 日本料理のルーツ奈良時代の食事」が行われた。受講者は、この6つの研修のうち、あらかじめ希望した研修を1つ受講した。



3日目は、前日の5グループの協議内容について、各グループの代表者による発表と指導助言者による感想が、分散会報告として報告された。

閉会式では、当研究所の山崎吉朗専任研究員による研修会の総括を交えた閉会挨拶の後、参加者代表に修了書が授与され3日間の研修会は終了した。